

子どもの発達とテレビ

父母と一緒に、子どもがテレビの番組を楽しむことは、親子のコミュニケーションの一助です。しかし、子どもがテレビの前にいると手がかからないという理由から長時間見せるのは、無意味な時間つぶしです。幼い子どもは、大人の顔を見ながら双方向性のあるコミュニケーションの中で、人間としての感性や言葉を学んでいきます。テレビは平面的な光が点滅し、人工的な音が聞こえてくる機械であり、一方通行の情報社会です。そこで重要なのが、幼い脳(心)への影響です。

この時期の人間としての脳(心)の土台づくりが障害されると、それ以降の大切なステップ、「現実と非現実の境界線を閉じること」「(8〜9歳)、「思春期を乗り越えること」「(10歳〜)が難しくなります。

現実と虚構の区別

子どもは虚構と現実、テレビの世界と日常の世界を区別しているのでしょうか。

2歳代では、テレビと現実とに何らかの違いがあることに気がきますが、2つの世界がつながっているようにも思っています。3歳代では、見ている自分とテレビの人物とは交渉できないことがわかり、登場人物への同一視も始まり、遊びの中で模倣するようになります。4歳代では、番組と現実との類似や相違が分かり始め、テレビの中の出来事は本当のことではないと否定するようになります。

子どもとテレビの問題

一つ目は、テレビを含めメディアの低年齢化、長時間化です。乳幼児期の子どもは、身近な人とのかわり合いや遊びなどの実体験を重ねることによって、人間関係を築き、心と身体を成長させます。ところが、乳児期からのメディア漬けの生活では、外遊びの機会を奪い、人とのかわり体験不足を招きます。

二つ目はメディアの内容です。メディアで流される

情報は成長期の子どもに直接的な影響をもたらします。幼児期からの暴力映像への長時間の接触が、後年の暴力的行動や事件に関係していることは事実です。

日本小児科医会からの提言

- ① 2歳までのテレビ、ビデオ視聴は控えましょう。
- ② 授乳中や、食事中的テレビ、ビデオの視聴は止めましょう。
- ③ メディアへ接触する総時間を制限することが重要です。1日2時間までを目安としましょう。
- ④ 子ども部屋にはテレビ、ビデオ、コンピューターを置かないようにしましょう。
- ⑤ 保護者と子どもでメディアを上手に利用するルールをつくりましょう。



佐伯地区医師会
下 菌 広行

なるほど!! 健康講座
問合せ 廿日市市保健センター ☎②01610